

令和２年度第２回 独立行政法人国立重度知的障害者総合施設
のぞみの園運営懇談会議事要旨

令和３年３月１５日（月）
１３：３０～１５：００
文化センター

- I 開会
- II 理事長挨拶
- III 議事
 - 1 コロナウイルス感染症への対応について
 - 2 利用者の状況について
 - 3 のぞみの園の予算状況について
 - 4 今後に向けた検討状況について
- IV 報告事項等
 - 5 食堂運営の終了等への対応について
- V 閉会

【議事に対する主な質疑（○：委員、●：のぞみの園）】

- ：職員、利用者の方々の感染者はいないということだが、37.5 度以上で出勤停止の職員はいたのか。濃厚接触者がカウントされたのか。コロナ感染防止と通常業務によるストレスの対策があれば答えていただきたい。
- ：この１年間に発熱で大事をとって休みを取った方が合計 25 名おりました。PCR 検査を実施した職員は 5 人おり、結果は陰性でした。全て家族が陽性または濃厚接触者となったものであり、その関係で職員が検査を受けたものです。また、ストレス対策に関しては、職員は高い意識をもって感染対策を行っており、１年間感染が無かったということはそれなりの評価をしても良いものと思っております。
- ：テレワーク（在宅勤務）をしている方は何人いるのか。
- ：４月～１２月までのテレワーク実績は、延べ 25 名 トータル 180 日です。直接支援の現場ではテレワークが難しいのですが、主に研究部に所属する県外在住の職員で自宅にインターネット環境があり業務が可能ということで対応していただきました。
- ：オンラインの面会はどのような実施方法なのか、例えばお亡くなりになりそうだという案件の対応は？
- ：タブレットと汎用のアプリケーションを使用して、ビデオ通話をして

おります。一人 20 分程度で面会をします。

利用者がお亡くなりになりそうだという案件の利用実績はありません。

- ：行動障害、矯正施設退所の方の受入予定に対し実績が約半数しかないことの理由と、今後の予定等について教えていただきたい。
- ：目標に対して受入が進まない理由は、やはりコロナの対応で調整の遅れが出ているということです。のぞみの園の特色として、全国から入所の依頼をいただきますが、多くの自治体からコロナ感染対策による自粛の流れがあり、思うように面接、調整会議等が開催できないことが年度の前半でかなりありました。第3四半期になりオンラインを活用して各自治体と調整等が出来るようになり、受け入れも進み始めています。また強度行動障害者の受入については、他の利用者の刺激に敏感な方が多い支援困難なケースを受け入れているため、想定した人数を受入れる事が難しい状況もありました。居住環境等の導線に工夫をしながら目標数を受け入れできるよう寮の改修も含め検討しています。
- ：退所して、グループホームや障害者施設に行かれる方、障害の程度が改善したといえるのでしょうか？
- ：のぞみの園入所時は利用者みなさんに「強い行動障害が現われている状態」ですが、先の見通しについての不安等を取り除くために、次の行動はこうですよと手や図で示してあげたり、個々のパターンがある特徴を捉えて支援することで、徐々に落ち着いた生活ができるように心がけています。地域移行前には「サポートブック」を作成して、移行する事業所へ提供したり、移行前にのぞみの園で、現任研修として一緒に様子を見てもらうなど環境調整をすることにより「安定した状態」で引き継げる工夫をしています。
- ：グループホームの受け入れについてのぞみの園がグループホームを作り、施設入所の方をグループホームに移すということですが、現状との違いが見えてこないのですが。
- ：日中サービス支援型グループホームの基本は、外の事業所にいて日中もその場所で支援を受けられる仕組みです。利用者のメリットは、居宅サービスの利用確保と、グループホームは施設ではなく地域生活を行う場として、個別に多様なサービスを受ける事ができます。施設の職員からでなく、外部からサービスを受けられる例として、外出をして買い物をしたいといえれば利用できます。職員配置は、手厚い人員配置となり支援の手が増えるということになります。